

ええる 輪姦地獄

18禁

影追い

表紙協力
木星在住



●とにかく
えるをレイプ

●寝取られ作品
●あとからアへ顔

●私、気になります
どうしたらエッチが
気持ちよくなるか
を教えてください

B5 600dpi データ入稿用トン



18禁
2012. 5. 29

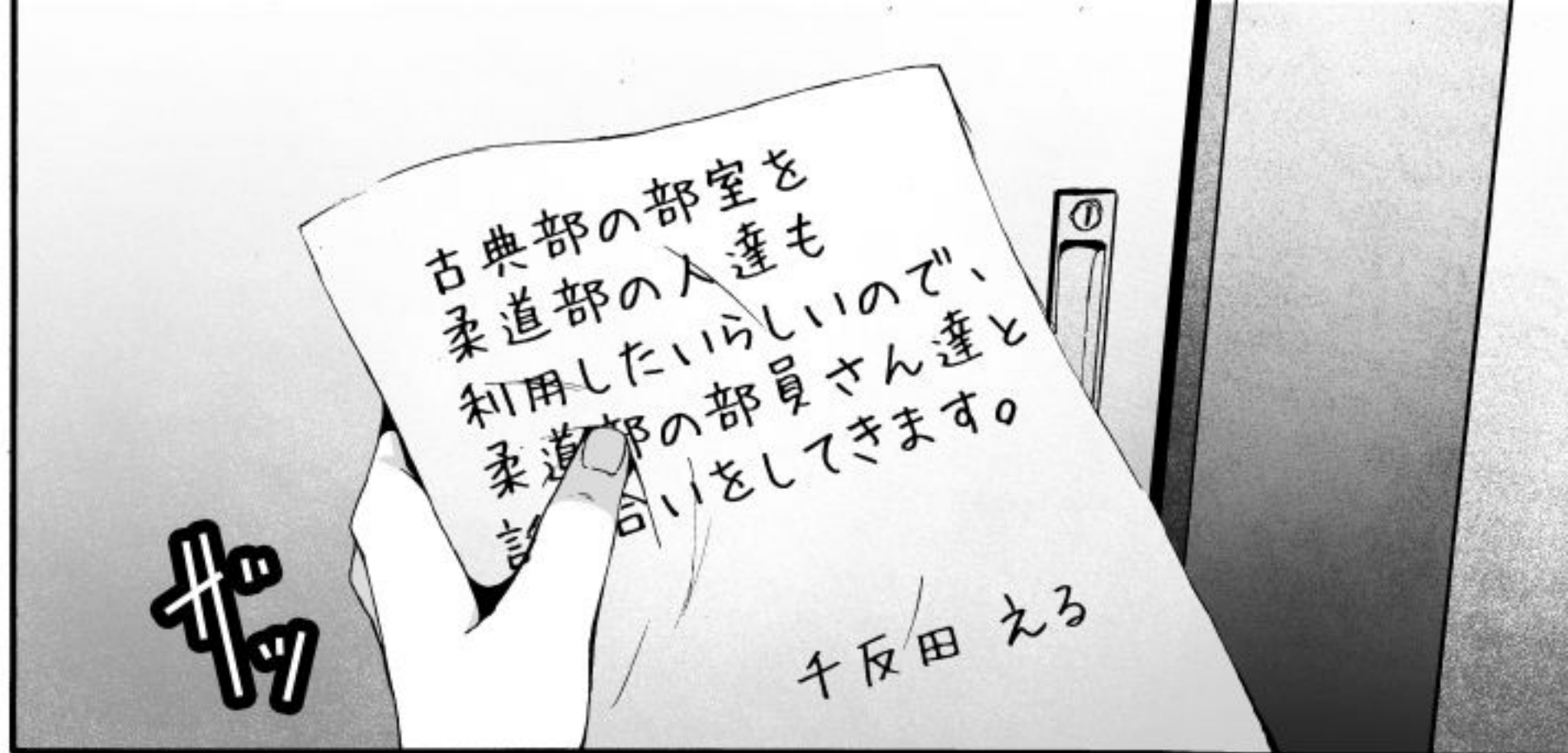
える 輪姦地獄

18禁



影追い

表紙協力
木星在住





げへへ
えるちゃんの
おっぱい

おい
早く脱がしち
まえよ

意外と胸
おっきくねえ



えっ



何が…
起きて…
るんだ…



なっ



どうして
来ちゃったの
折木さん…

私の手紙の文章…
何処かおかし
かったかな



ごめんなさい…
柔道部の
人達に…

ググググ…







後ろから
入んねえだろ

おらっ
もっと腰浮かせよ

千反田



え…

んっ
んっ



よっ

んっ
んっ



よかったなあ
千反田



ん？



省エネ男に
心配されてよ



あいつが
叫ぶなんて
よっぽのことだぜ



俺たちはよ
アイツの
偉そうな態度が

前から
気に食わな
かったんだよ

省エネとか
ぬかしながら

いつの間にか
こんな
可愛い女と

部室で二人で
いちやつき
始めやがって

何故だ…

気に食わねえ

千反田のマンコが
ガバガバになって

子宮が壊れるまで

存分に
犯してやろうぜ

俺はただ…
何も無い
平凡な日々を…

求めていた
だけなのに…

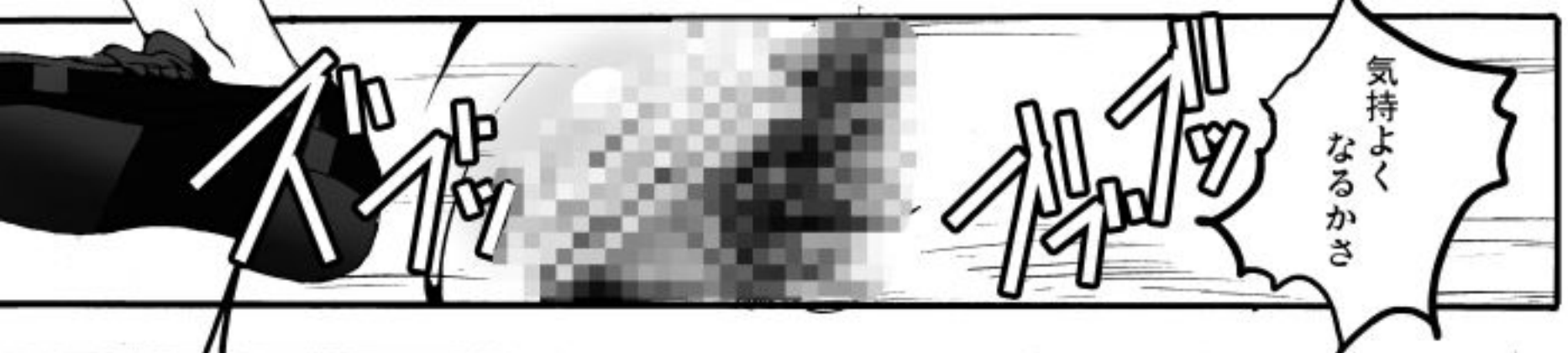


エッチな事を
楽しまないと

ほらきつと



えるちゃんだって
気になるでしょ？
どうしたら
エッチが
もっともっと



気持よく
なるかさ





私…
気に
なります…

ん、
ん、
どうしたら…
エッチが…
気持ちよく
なるのか…

あ。

は、
は、

ん、

ん、



え…
え…
える…

とんだ
淫乱女だぜ



マンコ
壊すどころか

愛液で
べとべとだ



まじで感じて
きやがったぜ
この女…

はっ





女なんて
あんな
もんだぜ



みろよ
奉太郎



見知らぬ男達の
チンコを啜えて
悶え狂るう

おしとやかだった
千反田も所詮は
ただの淫乱女だ

お、あ、あ

あ、あ、あ



オマエは
あんな女のために

珍しく
一喜一憂
してたそう
じゃねえか



私…

わかつちや
いました



折木さん…



エツチが
どれだけ
気持ち
いいか

ボロボロ





ああああ



うおっ

えるの
中出
中出
中出



凄い

中に
いっぱい
精子が入って
くるよお



ははは

気持よ
かったぜ
えるちゃん

チヨージに
乗って

中出し
しすぎた



あとは二人で
仲良くな

えるのま○こ
ユルすぎて
もう飽きたわ

帰ってゲーム
しようぜ
ゲーム



千反田える



また
俺達と
乱交しようぜ



パンツに
射精する
ような

だぜー
省エネ男に
飽きたら



「んっ・くっ・この体勢はちょっと・日頃、省エネを謳っている折木くんにしては珍しいですね・」

「そんなに溜まりましたか？」

すると、折木は強引に腰を動かし始める。

「くひっっ！、そんな急に動かしたら・」

そう言う千反田をよそ目にさらに強く動かす。

「くっっっ！・や、やだ・」

そんなに強くしたら・

彼女の性器からは透明な愛液が陰茎を出し入れするたびに溢れ出してくる。

「い、いやっ、私、いきなり激しくされて喜んでるなんて・」

そう言いながらも愛液は止まらず、次第に彼女、自ら腰を振り出した。

「ああああっ・！、はあ、はあ・もうイっちゃった・」

ね・少し、休憩しっ！？」

彼女がいったにも関わらず、すぐにまた、先ほどよりも強く腰を振り始めた。

「ま、待ってっ・さっきいったばかりでまた・」

すると彼女の性器から小便のように潮が吹きだした。潮はベットを越え向いの壁までかかっている。

それでも折木は腰を止めようとはしない。

「・くひっ、はあ・っ、あっ、あひっ・」

彼女は朦朧とした意識のなか潮を吹き続けている。「・っ！」

彼女は痺痺しながら意識を失っていた。

その姿をみた折木は何も言わず部屋から立ち去った・

異臭立ちこめる部屋には彼女が

性器から精子を溢れさせながら倒れていた・



「ふくちゃん、優しくしてね・・・」
 シーツに横たわる伊原に福部は彼女の
 性器に自分のモノを沈めていく。

「い、痛いっ！もっと、ゆっくり・・・っ」

彼女の言うようにゆっくりと入れゆく。
 すると、じんわりと彼女の
 性器から血が滲み出してくる。

「やった・・・ひとつになれた・・・っ。」

初めてはふくちゃんがよかったから・・・。」

そう彼女が言うと福部は彼女を優しく抱きしめな
 がら、ゆっくりと腰を動かして出した。

「んっ・・・んっ、ふくちゃんの思ってた
 大きいね・・・。」

そういうと福部は照れくさくも満足気な顔で彼女に
 キスをした。

「少し・・・慣れたから、強くしても良いよ・・・。」
 すると、徐々にはあるが腰の動きが強くなる。

性器に入れ入れるたびに愛液と血が混じったモノが
 流れ出してゆく・・・。

「ん、くっふっ・・・もっと・・・もっと強くっ！」
 福部も彼女の声に応え、さらに腰の動きを強く

してゆく・・・ふたりはお互いの焦点が合わぬ程、
 快楽に沈んでいった・・・。

「い、イク・・・っ、イっちゃうっ・・・
 一緒に・・・っ」

彼女の荒い声に応えるように、福部はさらに深く、
 速く、沈めてゆく。

「あっ、ああっ・・・熱い・・・。」
 福部は息荒く、彼女の性器からモノを引き抜くと

血と混ざり、少しピンク色の精子が溢れ出してくる。
 「はぁ・・・はぁ・・・まだだよ・・・」

一回だけじゃだよ・・・」
 ふたりはお互いの愛をたしかめるために

再び快楽に身を沈めてゆく。

あとがき

どうも、影追 いそいそものです。

このたびはご購入頂きありがとうございました。
初めての同人誌でまだまだ未熟ですが
もっと頑張りますっ。
えろちゃんがかとにかく難かたですっ



発行日

2012. 5 . 24

発行元

かておい☆

印刷所

丸正インキ